

第3回宗像市幼児教育審議会議事録(要点筆記)

日 時:令和3年11月10日(水)18時00分～19時15分

場 所:宗像市役所 103 会議室

出席者:船越会長、高杉副会長、納富委員、牛島委員、井手委員、原田委員、井中委員、
荻野委員、棚橋委員

事務局:(教育子ども部子どもグローバル人材育成担当部長)徳永部長、
(教育政策課)川原指導主事、(子ども家庭課)山本係長、
(子ども育成課)中野課長、賀来参事、瀧口係長、田中係長、三吉

【会議内容】

1 あいさつ

(会長よりあいさつ)

2 協議

①育てたい幼児像、共通目標(案)について

②宗像市幼児教育振興プログラムの6つの基本施策について

【委員からの意見】

①育てたい幼児像、共通目標(案)について

- ・案として幼稚園教育要領の5領域を入れてはどうか。
 - ・自分を大切にし、他者を大切にする心を育てる
 - ・言葉によって伝え合う力・感じたことや考えたことを自分なりに表現する力を育てる
 - ・身近な環境に親しみ、かかわる力を育てる(追加)
 - ・健やかな心と体を育て、健康で安全な生活を作り出す力を育てる
- ・新しいプログラムができたなら保護者に渡す側が理解するためにも、研修会等で伝え、先生方に浸透させるとよい。
- ・啓発用のチラシを配布するときには、イラストや写真を取り入れると見やすい。

②6つの基本施策について

基本施策 1

- ・「生きる力」の基礎を培う教育推進は大切にしていきたい。
- ・「生きる力」のバランスを保ってほしい。
- ・人とのかかわりを大切にする育ち、どのように育てるのが大切である。
- ・コロナ禍の課題を踏まえた教育の見直しが必要。
- ・コロナ禍の中の保育において、日常の歌を歌うことに配慮した。
- ・コミュニケーションの大切さを伝えながら、コロナ禍の中会話を控えなければならずその矛盾に戸惑いを感じた。

- ・マスク着用することで表情が伝えられなかった。
- ・コロナ禍で学んだ新規採用の先生への対応の仕方の工夫が必要。
- ・文科省から初等中等教育分科会に「幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会」が設置され、さらに保幼小の連携に力を入れたい。
- ・リモート研修が増えすぎて保育士の疲れが見えてきた。
- ・コロナの影響で人との関わりが難しくなった。
- ・コロナ禍はクラスごとの分散開催で行った。
- ・家庭の過ごし方に変化があった。子どもが友だちの家に遊びに行きずらくなり、また、親も子どもを預けにくくなった。子どもの関心が絵本とゲームに二極化した。外遊びを進めてほしい。
- ・コミュニケーションの不足は心の安定、体力にも影響あり。家庭の実態を踏まえながらアウターコロナの対応を考えていきたい。
- ・コロナ禍の中で必要なものは何か、本質的な大切なものは何か。
- ・保護者同士の付き合いが希薄。
- ・コロナ感染の不安からの出席停止の増加。併せて未就園への保護者への啓発の仕方を検討。
- ・コロナ影響で友だちと遊ぶ機会が減り、小学生はタブレットを使いグループで話している。・タブレットを友だちとのコミュニケーションのツールとして使っている。
- ・科学的な知識を持ち感染予防すれば恐れなくてよい。

基本施策 2

- ・小学校教員が園に1週間留学サポートに入る。また、園の先生が小学校に留学しサポートに入る。
- ・相互的な学習のカリキュラムの位置づけをする。
- ・スタートカリキュラムに関する実態を把握する。
- ・教育課程編成はカリキュラム検討委員会などを構築し、保幼小が集まり体系的に進めていくとよい。

基本施策 3

- ・保育所の研修・支援に力を入れてほしい
- ・オンライン研修を積極的に取り入れてもらいたい
- ・実践につながる研修を進めてもらいたい。また現場を知れる研修がよい
- ・引き続き子どもの権利研修を取り入れてほしい。また、多様性を認める視点と、男女共同参画の視点を研修の中に入れてほしい。
- ・福岡教育大学附属幼稚園での保育者研修等研修会は、今後も継続してほしい。
- ・園ではオンライン研修を取り入れ、効率的に参加できた。今後市でもオンライン研修、録画配信を保育者の質の向上のために取り入れてもらいたい。
- ・現場に訪問するなど、実践研修を増やしてほしい
- ・今後の研修は集合型とオンライン型の併用がよい。
- ・県の教育委員会では、研修として園種を超えて情報共有しようと発信しながら進めている。
- ・親子で小学校訪問があるとよい。
- ・幼児教育振興プログラムが5年計画になっているが、その時代にあった計画が立てるためには、3年でもよいのではないか。

- ・発信力を高め方、時代にあった発信の仕方を工夫してほしい。
- ・若い人たちが使いやすいアプリを取り入れるのもよい。
- ・好事例をつくり発信するとよい。
- ・保育現場の魅力を発信できるプロジェクトなどを検討するとよい。

基本施策 4

- ・支援体制の構築。実態を把握する。
- ・コミュニケーション能力、伝える力、聴く力の低下。
- ・子どもの体験の場、保護者の交流の場、情報を得る発信の仕方に工夫が必要。
- ・友達と遊ぶ機会が減り、ゲーム、YouTube の利用の増加。

基本施策 5

- ・未就園児にふれてもらいたい。

基本施策 6

- ・子育てに自信がない保護者へ向けた支援を強化する内容にするとよい。
- ・基本施策に使われている再生はどういう意味で使われているのか。4 つ目の施策でも再生使われているが他に適切な言葉はないのか。趣旨にもあるように、子どもたちを取り巻く環境が地域のつながりの希薄化等により支援や協力を得ることが困難となっているので、その再生という意味で使われているのではないか。
- ・子育てサロンの運営がコロナ禍の影響で難しく、高齢化のため人事育成に力を入れたい。
- ・人権教育にも触れてもらいたい。
- ・パンフレットをわかりやすくしてほしい。
- ・保護者アンケートの取り組みを根拠あるものにしていき、共有していくとよい。
- ・保護者研修大会で市の取り組みを保護者に知らせる。
- ・教育力再生・向上を具体的に書いてほしい

保育・教育現場の委員からの意見

6 その他

- ・第4回の幼児教育審議会の日程について